

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000066		
法人名	医療法人社団 光仁会		
事業所名	グループホーム のはら		
所在地	山口県光市中央3丁目2-13		
自己評価作成日	平成27年7月	評価結果市町受理日	平成27年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かかりつけ医がすぐ隣にあり、医療連携がスムーズにできている。
レクリエーションを重視し、施設内では、手作業、歌、体操など色々な事に取り組んで生活リハビリとし、毎日活き活きた日々を過ごせるよう支援をしている。外出支援も楽しんでいただけるよう、外食も含め特別な企画を提供している。
栄養士による栄養管理されたメニューが多彩で、下ごしらえを一緒にしたり、季節料理を一緒に作ったりして、おいしい食事の提供をしている。
職員に意欲があり、家族の出入りも頻繁で楽しく賑やか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フェイスシートやアセスメントシートを活用されている他、日々の関わりの中で利用者から聞き取りをされたことや日常の会話での気づき、利用者の言葉や様子などを介護記録に詳細に記録され、ミーティングやカンファレンスで話し合われて、利用者一人ひとりの思いの把握に努めておられます。利用者の入浴時は職員との会話がはずみ、言葉のキャッチボールができることで、より思いの把握につなげられ、介護計画に反映されて、一人ひとりの思いの実現に向けて取り組まれています。懐かしい歌を歌われたり、足踏体操やラジオ体操をされたり、ゆっくりテレビを視られたり、季節に応じた行事への参加や散歩や花見などの外出、おしゃべりや食事の準備、後片づけなど、楽しみごとや活躍できる場面を沢山つくられて、利用者一人ひとりが好きなことやできることを思い思いにされて、喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を介護現場の方針、指針として、月の目標に設定して実践している。見えやすい場所に貼ってある。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている他、毎月、職員が理念にそった目標を立てて、理念と併せて事業所内に掲示している。管理者はスタッフ会議で理念について話し合っている他、「申し送りノート」の表紙に理念を記した紙を添付し、申し送りの時に理念の確認をして共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン作戦、敬老会へは職員が利用者と一緒に参加している。近所へは散歩や花見などへ出かけ、出会う方々と親しく話せる。事業所での夏祭り、運動会、もちつきなどへ地域の人が参加してくれる。	利用者は地域の敬老会への参加や保育園の運動会に行き見学している。地域のクリーン作戦に利用者と職員が参加し、空き缶拾いをしている。同じ建物内にある小規模多機能型居宅介護事業所と合同で夏祭りを開催し、盆踊りのボランティアの参加や地域の人の参加があり、利用者はお揃いのハッピーを着て参加し交流している他、運動会や餅つきでも交流している。公民館で地域の人に向けた認知症サポーター養成講座を開催している。近くの公園で花見会をしているとき、散歩途中の地域の人に参加したり、利用者が事業所の周辺を散歩しているときに出合った地域の人と挨拶を交わしているなど、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉委員会に参加しており、専門の資格を持った者が研修を受け、地域の人に対してキャラバンメイト活動をしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議でサービス評価の意義を話題にし、目標への取り組みと反省をし、改善に取り組んでいる。外部評価の前の自己評価の段階では、各職員が書類に記入し理解に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に評価をするための書類を配布して記入してもらい、まとめている。前回の外部評価結果を受けて、スタッフ会議で話し合い、目標達成計画を立て、身体拘束をしないケアについて学び、玄関の開錠に向けての検討をしている他、地域との協力体制について運営推進会議で話し合うなど、改善に向けて取り組むように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で外部評価を議題として取りあげ、サービスの状況はスライドショーで報告している。地域との関わりを始め、事業所としても地域に対してできる事などの意見を出してもらった会議としており、サービス向上に取り入れている。	会議は2ヶ月に1回、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。メンバーへの案内書で会議の課題を知らせている。利用者の日常生活の様子をスライドで報告したり、事業所の取り組みや現状、外部評価結果報告などをして課題について意見交換をしている。災害時の地域との協力体制についての話し合いや消防署員からの提案で訓練の目標の立て方やひとつずつクリアしていくことの必要性を学び実施している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉総合支援センターにある各々の担当課へは、提出書類や保険更新、パンフレット持参等で出向き、担当課よりは空き状況調査やボランティアの受け入れ登録の要請など、密に協力関係を築いている。	市の担当者とは、電話や出向いて相談し助言を得たり、情報交換をして、協力体制を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時で情報交換している他、電話で地域の人のことについての相談や入居の相談等を受けているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で行っている身体拘束の研修は、のはらが担当となり、資料作成はスタッフ会議において事前に検討し作成した。検討の中で施錠についても話し合い、開錠への取り組みを行っている。	年1回、法人が実施している身体拘束についての研修を事業所が担当し、スタッフ会議で検討して資料の作成をして学び、全職員は身体拘束をしないケアについて理解している。玄関の施錠について検討し、洗濯物を干す間(5分～10分、1日5回)は開錠し、利用者が外に出られるようにしている。外に出たい様子の利用者に気づいたら職員が一緒に出かけている。スピーチロックについては、管理者が気づいた時にその都度、注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し学び、持ち帰ったもので復命研修を行い、職員全員への教育の場を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、説明できる資料は備えており、いつでも相談にのる準備はできているが、現在のところ事例は無し。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約は死亡による契約終了及び他サービスへの変更による解約があった。その際は十分な説明を行い、納得いただいている。改定の場合は書類により説明を行ったうえで、同意をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に書類にそって説明をし、苦情の受付箱を置いてある。相談、苦情を受けつけた時のマニュアルがある。家族との会話の中から不満や意見、要望が無いか伺うようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時等に家族から意見や要望を聞く機会を設けている。来訪した家族には、主に管理者が対応し、利用者の体調や日常の様子を伝え、家族が相談しやすいようにしている。衣類等の間違いについての意見には、職員間で話し合い、衣類の管理や洗濯時のチェックなどに注意し、間違いのないように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や毎日の昼のミーティング時に、意見を発する場があり必要に応じて反映させている。車イス、エアマットや備品の購入、業務改善案の作成の実施ができた。	月1回のスタッフ会議や朝・昼の申し送り時、昼のミーティング、年1回の管理者との面談時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が職員から意見を聞いている。備品の購入や業務改善案の作成、チームワークについてなどの意見があり、業務マニュアルをつくりなおしているなど反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人目標設定のスキルアップ評価を行っており、給与、賞与に反映させている。職員の意欲に対して研修にも参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回、年24回にわたり法人内の研修がある。事業所独自の研修計画もあり、月に一度行っている。外部へは実践者研修、虐待防止などの研修に参加させている。	外部研修は職員に情報を伝え、職員の段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は毎月2回、テーマを決めて実施しており、職員が交代で参加している。外部や法人の研修を受講した職員は、スタッフ会議と昼のミーティングの中で復命報告をして資料を回覧し共有している。内部研修は毎月のスタッフ会議と昼のミーティングで、テーマを決めて職員の担当者を決めて10分程度の勉強会をしている。緊急時の対応として、法人の研修で誤嚥と食事介助の手順、内部研修で骨折時の対応、熱中症についてなど研修している。新人職員は法人の研修を1回受講した後、1ヵ月間、先輩職員について働きながら学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内にある同業者の協議会に参加をしている。職員は外部の研修へ受講させ、同業者との交流できる機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や入院先などに訪問し、本人とまず面会を行いしっかりアセスメントをとり、本人の思いを汲み取るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞く為に本人とは別に話を伺い、思いを知るようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の受付をしてから必ず見学していただき、面談を行い、ニーズに対して必要なら他のサービスの紹介も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念や月の目標のもと、人生の大先輩との意識を持って利用者様に接し、同じテーブルを囲み互いが助け合う関係となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の状態の報告、説明を行い、必要な物品や状態変化があれば、その都度連絡をし協力をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来苑面会は遠慮のないよう契約時に伝える。来苑後は「また、お越しください。」の一言をつけ、次回の来苑につなげている。昔なじみの美容院さんに頼み散髪をしたり、よく行った公園への散歩など、外出は出来るだけ要望に応え、行きたい場所を知り実施している。	友人、知人、親戚の人、職場の元同僚、昔住んでいた近所の人などの来訪がある他、年賀状や暑中見舞状での交流の支援をしている。馴染みの場所までドライブしたり、家族と一緒に外食や買い物、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一つのテーブルを囲んで過ごすスタイルができていて、皆さんが隣の人や向かいの人の心配をしたり喜んだりお世話したりとの関係がある。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居で契約終了となった方の中には、命日には毎年来苑される家族がおられる。他のサービスに移られた方は、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中や、家族との会話の中から、思いや意向を把握したり、介護していく上で気付いた事等をミーティング、カンファレンスで発言したり、介護記録に残したりしている。	フェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日常の関わりの中で利用者から聞き取りしたことや会話、様子などを介護記録に記録し、ミーティングやカンファレンスで話し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。利用者の入浴時は職員との会話が弾み、言葉のキャッチボールができ、思いの把握につなげている。困難な場合は、利用者の表情や状態から汲み取って、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスよりもらった情報提供表の活用と本人、家族から聞き取った情報からアセスメントし、フェイスシートに反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活ぶりは、介護記録に記入を行い気付いた事は、朝礼、昼ミーティングで報告し連絡ノートで申し送りしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直している。計画作成者はかかりつけ医の指導や、他の職員の意見、家族の思い、本人の言葉を聴き、計画を作成している。	本人の思いや聞き取ったこと、家族の意向、医師や訪問看護師の意見を参考にして、ケアカンファレンスを開催し、計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心に話し合い介護計画を作成している。生活記録に計画の実施状態を記録し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し評価して見直してしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、カンファレンスを開いて話し合い、その都度見直して現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、変化があったこと、発した言葉、気付いた事等書き、申し送りなどで重要な事は伝えている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関のリハビリを受けたり、他部署との交流を行い、クリスマス会、誕生会を行っている。ボランティアの慰問も受け入れている。併設の小規模多機能と合同の行事も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医、スーパー、商店、公園、文化センター等、近くにある地域資源を把握し活用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が、隣接する協力医療機関が、かかりつけ医であり、そのかかりつけ医とは医療連携が取れている。本人、家族の希望を聞き、望まれる事に対応している。整形などの他科受診は家族の協力をいただいている。	利用者は協力医療機関(法人母体)をかかりつけ医とし、週3回の訪問診療や家族の協力を得ての他科受診の支援をしている。受診の際には、看護師が主治医に利用者の状態について情報を提供し、受診後には家族に報告している。緊急時には、協力医療機関と連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する医療連携をとっている医療機関より看護師が来る。その時に報告、相談できる状況にあり、すぐに受診や看護に繋がる体制である。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、お見舞いに行き関係者への情報提供をし、退院時には情報をいただき、病院関係者との関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携について、契約時に先ず十分説明を行う。説明書類を渡し、その上で同意をとっている。看取りを実施しており、実施時には指針に基づき家族の思いを確認し、共に協力の上で看取りを行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」があり、契約時に事業所のできる対応について家族に説明し、同意をもらっている。実際に重度化した場合は、家族、主治医、看護師、関係者と話し合い、方針を決めて、実施するための同意書を家族から得て、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生した場合は、速やかに報告書に記して改善策の検討を行い、安全委員会への報告も行っている。報告済ませた後は、再度回覧して全員で事故防止に取り組んでいる。応急手当に関しては、医療従事者より定期的な研修を受け、実践力が身につくようにしている。	事例発生時には、その場にいた職員で対応策を話し合いインシデント、アクシデント報告書に記録し、申し送りで共有して、ミーティング時に検討している。月1回の法人の安全委員会で再検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。骨折、誤嚥、発熱などの応急手当について法人の看護師の指導で学んでいる他、年2回、AEDの使用訓練を販売業者の指導を受けている。応急手当や初期対応について、全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。地域の方へは協力の同意をいただいた上で緊急連絡網の作成をしている。訓練には参加していただけるように連絡を取っている。職員の緊急連絡網を使い定期的に通報訓練をしている。	年1回、拠点全体で夜間を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練、消火器の置き場所の確認、避難通路の確認など消防署の協力を得て実践している。利用者、民生委員、自治会長も参加してる。年1回は事業所独自で避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施している。職員間の緊急連絡網があり、通報訓練をしている。事業所の緊急連絡網に地域の人（民生委員、自治会長）が加入している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの保護については法人の研修が必ずある。のはらでは月の目標にして取り組んでおり、毎月のスタッフ会議で反省と検討をしている。	職員は法人の研修で学び、職員の月の目標としてミーティングで話し合い、人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が注意している他、スタッフ会議で反省や検討をしている。個人記録は保管して取扱いに気をつけ、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への言葉かけは、先ず何う事から始めている。傾聴の姿勢で臨むよう工夫している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは出来ているが、その時その時の思いを聞き、一人一人のペースを楽しみながら過ごせるよう、たくさん会話している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば一緒に洋服の購入に出かけたり、本人の好む着用、化粧、髭剃り、散髪等の本人選択を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルをふいたり食器をさげたり洗ったり、出来る事は職員と一緒にやっている。皆でテーブルを囲み、ゆっくり食事を楽しんでおられる。花見には弁当を持って桜の下で食べたり、施設内でのそうめん流しなど、特別な楽しみも持っていて頂いている。	事業所がある拠点施設内の厨房で法人栄養士の献立で三食とも調理している。利用者は下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、お茶くみなど、一人ひとりができることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、きざみ食、とろみ食、お粥など食事の形状を工夫している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、同じものを食べながら会話し、ゆっくり食事をしている。おせち料理の一品や七草粥、おひなさまのてまり寿司、おはぎ、恵方巻きをつくったり、ソーメン流しなど季節の料理を楽しんでいる。長芋やじゃがいものおやき、ゼリー、ケーキのデコレーション、ホットケーキ、プリンなどのおやつづくり、弁当を購入しての外出や外食など、食べることが楽しみとなるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により1日の目安は出来ている。水分補給は時間を決めて摂ってもらう他、常に聞いて、欲しい時に飲んでいただいている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必須として取り組んでおり、一人一人に対して職員同士で実施の確認をした後、記録している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を記入し、各々のパターンを知るようにしている。なるべくトイレで排泄できるよう、こまめにトイレ誘導している。	排泄記録を活かして、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導などで、トイレでの排泄支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を記録表で行い、便秘の重要性を理解し把握するようにしている。便秘傾向の方には繊維質の食事を勧めたり、水分摂取を勧める等行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に一度は入浴できるよう計画はあるが、順番に決まりはなく、毎日日中を使い一人でゆっくり入っていただけるよう個浴の対応をしている。	入浴は毎日、9時30分から11時30分までと14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回はゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態によって、シャワー浴や機械浴、清拭などで対応している。入浴時は利用者との会話がはずみ、言葉のキャッチボールができて利用者が入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、言葉かけに工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本となる起床時間、食事時間はあるが各々横になりたい時には自室の温度の管理を行い、臥床、離床の声掛けをしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と共にもらう薬情報は、個人ファイルに整理しており、処方時、変更時には連絡ノートを活用し、皆で共有している。服薬の管理は職員が行い、飲み忘れのないようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事に対して企画を立て楽しみごとを設けている。毎日のレクリエーションも一緒に歌や体操、談話などで楽しんでいる。毎日のお茶の時間には、本人の望むものや珍しいと思えるものなど提供し、楽しんで頂けるように取り組んでいる。	テレビやDVDの視聴、歌を歌う(懐かしのメロディ)、新聞や雑誌、本を読む、ぬり絵、ことわざ、などなど、計算、すごろく、かるた、トランプ、書初め、ラジオ体操、口腔体操、足踏体操、おやつづくり、風鈴づくり、おしぼりづくり、季節の行事、プランターの花の水やり、食事の準備や後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけなど楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事、企画で外出の機会を設け、平等に外出できるよう心掛けている。企画の連絡は家族に伝え、必要な帽子、上着等用意してもらっている。外出先では地域の方の協力のもと、楽しんでいただけるようにしている。日常的には近所への散歩や、施設の周りの植物への水やりなどで、近所の人との会話を楽しんでいる。	施設周辺の散歩や季節の花見(梅、桜、バラ、菖蒲、つつじ、紫陽花、コスモス、紅葉狩りなど)、保育園の運動会、寺のまつり、イルミネーション見学、外食などに出かけている他、家族と一緒に外出しているなど、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預っており、個別買物に出掛けた時には本人に確認、同意の上、そのお金から支払いをしたり、外出時には本人のお金で本人に自動販売機の飲み物を買っていただいたりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話される方はおられないが、かかってくる電話はつなぎ、本人の能力内で暑中見舞い、年賀状を書いて出していただく支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不要な物は置かず、季節の花を絶やさず飾っている。不快指数表を目安に空調管理を行っている。日中は会話、レクリエーション等の声や食器洗いなどの適度な生活音の中、穏やかに過ごせるよう音への気配りをしている。	リビングは中庭から差し込む自然の光で明るく広々としている。テーブル、椅子、テレビ、ソファを配置し、季節に合わせて利用者がつくった作品が飾ってある。温度、湿度、換気、明るさ、音に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適当な場所に椅子が置いてあり、好きなように使えるように配慮をしている。中央にある中庭も椅子を置いて利用しやすくしてあり、外気浴を楽しんで頂けるよう工夫してある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、ベッド、照明は備え付けのものを使用してもらっているが、他は使い慣れたものを持ち込んで使用していただいている。居室担当者が持ち物の整理、整頓を行っている。	ダンス、机、椅子、テレビ、衣装かけ、衣装ケース、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自分の作品や家族の写真を飾って安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルな構造となっていて、トイレなど解りにくい場所には大きく貼り付けてある。居室の入口へ本人の写真を飾ったりして、自室が解りやすくしてある。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム のはら

作成日： 平成 27年 11月 15日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応について実践力が身に着いていない	実践力を身につける	スタッフ会議で毎回研修し、知識と実践のトレーニングを行う	1年
2	36	地域との協力体制を築くまでに至っていない	地域との協力体制の構築	地域への広報活動をする 地域の方と顔なじみとなるために、交流する機会を設ける	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。